

【オリコンサル・浅川組 地方創生のモデル事業に 南紀白浜空港 展望広場にビジネス拠点】

地方創生のモデル事業に

南紀白浜 展望広場にビジネス拠点

オリコンサル組
浅川

オリエンタルコンサルタンツが浅川組と共同で整備・運営する「(仮称)南紀白浜ビジネス拠点」の起工式が1日、和歌山県白浜町の南紀白浜空港展望広場(空港公園)内で開かれた。同社が展開する

「地方創生事業」のモデルと位置付け、同空港を運営する南紀白浜エアポートとも連携しながら、ICT企業の誘致や空港利用者の利便性向上、ワーケーションの促進など、同施設を核とした地域活性化に取り組む。

「FMoTクラウド(エフモットクラウド)」とBIMを運動させ、効率的に設備機器台帳を作成できるシステムを開発した。

同システムは、Rebro Viewer(NYKシステムズ製BIMソフト)との併用で、確認したい特定の設備機器を、Rebro Viewerで表示させる機能を実装し、3Dモデル活用による視認性も向上させている。

また、現地調査でも把握しきれない隠蔽(いんべい)部まで、3Dモデルによる確認が可能のため、改修計画検討や現地調査時間の削減を図れる。

同社は、BIMを建築事業のプラットフォームとして活用し、建物維持管理のほか、建物ライフサイクル全般のデジタルシフトを加速し、新たなビジネスモデルの構築、サービス提供を目指す。



完成イメージ



鋳入れする野崎社長

鋳入れする池内社長

南紀白浜空港に隣接する高台の空港公園内に整備・運営する施設は、木造平屋建て1000平方メートルの規模。事業費は約4億円。設計はオリエンタルコンサルタンツが担当し、シェルターが設計協力する。施工は浅川組。地域材である紀州材を活用し、木の香りや温かみのある空間を創りだすとともに、熊野本宮大社の屋根を想起させるフォルムとするなど、地域のシンボルとなる施設を目指す。

施設内は、企業向けのレンタルオフィスエリアと、空港利用者・白浜町民・ワーケー

ション利用者などの一般利用者を対象としたコ・ワーキングスペースエリアで構成。レンタルオフィスは7つのオフィス空間とともに、眺望が楽しめる空港滑走路側にテナント企業専用のシェアスペースを設け、企業間の交流や商談を促す場とする。一般利用エリアは、個室ブースや打合せスペース、セミナールール・会議室などを設置し、多様な働き方を支援する。

SDGs(持続可能な開発目標)を念頭に、屋根には太陽光発電パネルを設置し、エネルギー収支のゼロを目指すZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)化やBEMS(ビル・エネルギー・マネジメント・システム)を導入。さらに南紀白浜エアポート、JAG国際エナジー、オリエンタルコンサルタンツの3社で7月に締結した「ゼロ・エミッション空港を目指す包括連携協定」に基づき、施設内に蓄電池を設置し、再生可能エネルギーを空港施設に融通する。これにより平常時では電力消費の効率化と脱炭素化を図り、災害時でのレジリエンスを高める。

施設の開業は2022年6月を予定。オリエンタルコンサルタンツの野崎秀則社長は「施設単体ではなく、地域とネットワークを組むことで空港と一体となって観光や交流を促す地域活性化の核となる。さらに地域全体に再生可能エネルギーのネットワークを広げること、この地域で

のマイクログリッド構築も視野に、地域全体をこらえたエリアマネジメントの1つの事業モデルを示していきたい」と意気込みを語る。

1日の起工式には野崎社長と浅川組の池内茂雄社長ら事業関係者のほか、仁坂吉伸県知事、井瀬誠白浜町長、岡田信一郎南紀白浜エアポート社長などが参加し、工事の安全を祈った。